



学校法人
鎌倉女子大学

「フォーリン・アフェアーズ」誌のインタビュー

「金曜日には皆様とお話し出来て大変嬉しく存じます。皆様のご見解をご提供下さいまして有難うございました。鎌倉女子大学につきまして、また皆様が貴学の学生の皆様に提供している教育の全体像につきまして、より詳細にお教え下さいまして嬉しく存じます。貴学は、創立以来、活躍する能力をもった女性を養成してこられました。それは、今日の日本社会における極めて重要な事例です。学生にグローバルなマインドを提供することは、現在の教育環境における優先事項の1つです。また、私達は、皆様の大学が出来る範囲で国際交流や留学生を増やすことにおいて開放的な姿勢をお持ちであることを知り、嬉しく存じました。私達は、“Foreign Affairs”誌を通じて、貴学の評判をグローバルに高め、こうした貴学の目標を達成するための手助けになることを願っております」。

これは、3月5日（金曜日）の日本時間午後3時から1時間半ほど、フォーリン・アフェアーズのズームによるインタビューを受けたことに対する返礼です。

同誌は、1922年に創刊された、ニューヨークに本部を置く外交専門誌で、政治・経済・軍事・文化・教育等の分野にわたり、各国各界の著名なリーダーの意見を歴史的にも、また今日的にも発信している、アメリカで最も権威ある情報・オピニオン誌として知られています。

今回のインタビューは、そのフォーリン・アフェアーズから、2月下旬、以下のような依頼が寄せられたことによるものです。

「世界的な SARS-COV2 の大流行により、多くの留学生が国外での教育を受ける際に多くの課題に直面しています。一方、日本は、魅力的な教育の対象地としての地位を維持したいと考えています。実際、日本の教育システムは、世界のトップ10にランクされています。このため、次回のレポートは、日本の最も評判の良い教育機関を紹介するガイドブックとして役立てたいと考えています。このレポートはまた、日本と世界のその他の地域間のより強力な教育パートナーシップを促進するということの他に、日本の卓越性、開放性、また安全性を強調したものになるでしょう」。

「2021年の日本人のインタビューリスト」を見ますと、我が国の政界や学界を代表する方々のお名前が並び、折角本学に関心を寄せて頂いた機会ですので、有難くお受けすることにしました。

そこで、昨年2月までニューヨークのコロンビア大学でフルブライト・スカラーとして高等教育政策を研究してきた学術研究所の福井文威准教授と、質疑応答の同時通訳をお願いした、同じくコロンビアの“Teaching English to Speakers of Other Languages”課程で

修学してきた教育学部のデビッド・チャップマン准教授にも、専門家の立場からご意見を言
って頂こうと同席してもらいました。

私からのお2人の紹介、また鎌倉女子大学の概要についての説明に続いて、特に話題にな
ったことは、①本学の得意分野について、②イギリスのサセックス大学、カナダのビクトリ
ア大学、ベトナムのタンロン大学、ニュージーランドのマッセー大学、また一般市民も学生
も参加出来る生涯学習センター主催のイタリア食文化の旅といった本学の“Study Abroad
Experience”プログラムについて、③国際交流に伴う学生の生活及び学業全般にわたる管理
及び安全の確保、授業料やスカラシップといった社会・経済上の問題について、④女子大学
の役割、例えば女性の能力開発プログラムの提供といった問題でした。

最後に、先方の3人のインタビューアーの方々も大いに関心を示して下さい、「After
コロナ」を想定した福井准教授の指摘を紙幅の許す限り紹介しておきたいと思います。「伝
統的な高等教育の国際化は、学生や教員の移動を前提としていた。しかし、今回の COVID -
19 により、私達は、テクノロジーを活用して諸外国の方と交流出来る機会を学生に提供出
来ることを認識した。例えば、ズームを活用して海外の教育政策の担当者等を授業に招き、
学生と議論させることが出来る。これは、将来的に高等教育の国際化のコストを低下させる
可能性をもち、これまで十分に国際化を推進してこなかった大学にはよい機会となる。一方、
実際に海外に滞在することは、自分自身のアイデンティティを問い直し、日本で起きている
課題を海外からの視点で見直す機会ともなる。また、ズームミーティングは、アレンジさ
れた場所であり、思いがけない出会いや世間話生まれることは少ない。人と人との長期的
な信頼関係を構築する上では、やはり現地に滞在することの重要性は今後も継続すると思
う。それを踏まえ、今後テクノロジーと現地滞在を組み合わせたハイブリッド型の国際
化が大学の国際化を推進する上で重要になっていくだろう」。

[>前のページへ戻る](#)